



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

同 年

同じ年に生まれたものは同じ御霊を分け合っている、と聞いたことがあるけれど、たしかに同級生は不思議な縁がある。「同じ御霊を～」というか実際は、同じ時代を生きてきたから、考え方の根っこが似とるってことなんだろうけどね。

先日、幼馴染で集まった。それぞれ職種も家族構成も環境もまったく違う4人。そのメンバーで集まるのは初めてで、なんなら、つい最近まで高校を卒業してからまったく会ってなかった30年ぶりの友人も含まれとる。30年よ、サンジュウネン。なのに、まったくそんな感じがせんかった。これは私たちだけに限ったことじゃないはず。

父が同級生と会うといつも昨日のこのように学生時代の話をしてたのを思い出す。数十年前のことなのに、鮮明に、まるでその時にタイムスリップしたかのように楽しそうに話すなあ、とぼんやり見とったけど、あの日の私たち4人もきっとそうやったやろうな。

その時間があまりに楽しすぎて、他のみんなにも会いたくなかった。同じ時代を過ごしてきた、同級生みんなに。城辺小学校の150周年が終わったと思ったら、わたしたちの50周年やん。ふふふ。やりたいこと、見つけた。(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“6月の新着図書ピックアップ”の紹介

【育児エッセイ】

『1歳の君とバナナへ』

岡田 悠(著)

小学館(発行)

父が我が子へ語りかける手紙の形式で紡ぐ育児エッセイ。コロナ禍での妻の妊娠から子どもが1歳になるまでのパパ目線の記録。てんてこ舞いの日々。母と子の強いつながりに焦り、夫婦もぎくしゃく。

それでもきちんと話し合っ、逆境も楽しみながら全力で子育て。そして、淡々と日常を綴る。子どもへの客観的な視線も新鮮で、世代や性別を問わずお薦めしたい1冊。



【小説】

『まどろみの星たち』

菰野 江名(著)

ポプラ社(発行)

24時間営業の夜間保育所「つづきの保育園」。飲食業界、医療関係者、夜の仕事、シングル、深夜手当で生計を立てる外国人など、様々な事情で夜働く親が子どもを預ける。厳しい現代社会の中でも懸命に子育てする親と、親をひたむきに愛する子どもたち。そんな親子の力になりたいと願い向き合う保育士。「諦めないで。大丈夫。代わりに私たちがいるんですよ」。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。

図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ